

丸屋（家）銀行規約

従前丸家本店ノ勘定場ニ於テ各支店金銀出納ノ傍「セービングスバンク」ノ体裁ニ倣ヒ交銀私局ヲ置キ預リ金貸附金爲換等ノ取扱ヒヲ兼攝セシニ追々其業務繁多ニ及ヒタルヲ以テ今回更ニ合本銀行ノ旨趣ニ基キ新タニ銀行ヲ設立シ株主一同ノ協議ヲ以テ左ノ條款ヲ決定セリ

第一條

當銀行ノ名号ハ丸家銀行ト稱スヘシ

第二條

當銀行ノ營業ハ貸附金預リ金保護預リ爲換荷爲換及諸公債証書外國貨幣地金銀賣買等ヲ以テ業務トスヘシ

第三條

當銀行ノ株主ハ無限責任ト定ム

但當銀行株主一同ノ望ム所ハ有限責任ナルニ由リ若シ后日政府ニ於テ合本銀行條例ヲ發行セラレ有限無限ノ兩責任トモ許可セラルハニ於テハ當銀行ハ更ニ有限責任ノ允許ヲ請フヘシ

第四條

當銀行ノ本店ハ東京日本橋區檜物町十番地ニ置キ尙營業ノ都合ニ

因リ他ノ各地ニ支店ヲ設置シ又ハ他ノ銀行會社ト「コレレスボラデンス」ヲ締約シ又ハ代理店ヲ設ルコアルヘシ

第五條

當銀行ノ資本金高ハ七万圓ト定メ百圓ヲ以テ一株トシ七百株ニ分割スヘシ

但シ一人ニテ數株ヲ所有スルモ隨意タルヘシ

第六條

右資本金額ハ營業上ノ實況ニヨリ株主一同ノ協議ヲ經テ之ヲ増減スルコアルヘシ

第七條

右資本金ハ當銀行開業ノ日ヨリ三十日以内ニ入金スヘシ

但全額入金済ニ至ルマテハ仮株券ヲ渡シ置キ逐テ本株券ト引換ヘ渡スヘシ

第八條

當銀行營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿二十ヶ年ヲ以テ一期トシ滿期ニ至ル毎ニ更メテ許可ヲ乞ヒ永久繼續スルヲ目的トス

但營業期限中ト雖モ株主一同ノ見込ニテ協議ノ上解社スルコアルハ此例ニ非ス

第九條

當銀行ノ役員ハ各株主中ヨリ左ノ如ク撰舉スヘシ

頭取 壹人

監事 壹人

支配人 壹人

第十條

支配人以下ノ役員ハ頭取監事支配人一同ノ議決ヲ以テ之ヲ選任スヘシ

第十一條

頭取監事支配人ノ撰舉法ハ毎年第一月ノ總會ニ於テ投票ヲナシ其多數ナルモノヲ以テ當撰者トス

第十二條

支配人以上ニ撰舉スヘキモノハ十株以上ヲ所持スルモノニ限ルヘシ

但副員並雇入レノモノハ此限ニアラス

第十三條

頭取ハ銀行ノ全體ニ注意シ一切ノ業務ヲ總括シ總テ其責ニ任スルモノトス然レハ當銀行規約外ノ事ハ株主一同ノ協議ヲ經ルニ非サレハ施行スルヲ得ス

支配人ハ頭取ノ輔佐トナリテ銀行實際ノ事務ヲ處辨シ營業上ノ得失ニ注意シ總テ其責ニ任スルモノトス然レハ定例外ノ事ハ頭取ノ是認ヲ得ルニ非サレハ之ヲ實行スルヲ得ス

監事ハ毎ニ株主一同ノ委員タル心得ヲ以テ其銀行ノ營業正確ナルヤ否ニ注意シ其諸計算ヲ査閲シ諸役員ノ勤惰ヲ督視スルノ任ヲ負ブルモノトス

第十四條

役員ノ月給ハ左ノ如シ

頭取 貳拾五圓

監事 貳拾圓

支配人 貳拾圓

但シ副員雇入レノ者ノ給料ハ頭取監事支配人ノ共議ニテ取極ムヘシ

第十五條

當銀行ノ株主ハ各々所持セル株數十箇迄ハ一株毎ニ一箇ツ、ノ發言投票ヲ爲スヲ得ヘシ又十一株以上百株迄ハ五株毎ニ一箇ツ、ヲ増加シ百一株以上八十株毎ニ一箇ツ、ヲ増加スヘシ

但株主ノ協議ニ附スル事件ハ發言投票ノ數五分以上ヲ以テ頭取之ヲ決判スヘシ又總會ニ於テ株高三分ノ二以上ノ出席ニ非サレハ延會スヘシ尤モ第十八條繰越利益ノ額ヲ定ムルニハ出席ノ數三分ノ二以下タリハ當日ノ出席數ニ因テ之ヲ定ムヘシ

第十六條

毎年一月十日七月十日ノ兩度ニ株主一同ノ定式總會ヲ開キ其半期

中ニ取扱ヒタル事務ノ詳細ヲ頭取ヨリ演述シ且營業上ノ得失ヲ討論スヘシ

但右半期中營業ノ實況及ヒ諸勘定ノ要領ハ印刷シテ各株主ニ頒布スヘシ

第十七條

重大ノ事件ニ因リ株主ノ臨時總會ヲ要スルコアルキハ五日以前ニ頭取ヨリ其旨ヲ株主一同ニ通知スヘシ

第十八條

營業時間ハ午前第八時ヨリ午後第五時迄タルヘシ

但一般ノ祝日及毎月第一日曜第三日曜ノ兩日ヲ以テ休業スヘシ

第十九條

當銀行ノ總勘定ハ毎年兩度^{六月}其精算ヲナシ全體ノ利益金ヨリ一切ノ諸經費ヲ引去リ其純益金ヲ現ハシタル上株主一同ノ總會ニ於テ其協議ヲ遂ケ該期繰越利益ノ額ヲ定メ之ヲ後期ノ利益中ニ算入スヘシ右ノ如ク繰越高若干ヲ引去リ其殘高ヲ配當スルノ割合ハ左ノ如シ

純益金高百分ノ十 積立金

是ハ總株金高ノ二割五分ニ到ル迄ヲ度トシ之ヲ積立テ諸公債

証書等ニ換ヘ其殖益ヲ謀リ本社保續ノ準備ニ充ツヘシ

純益金高百分ノ五 別段積金

是ハ總株金高ノ二割ニ至ルヲ度トシ之ヲ積立テ非常ノ災害又ハ貸附金滞リ等ノ損失ニ備フヘシ

純益金高百分ノ五 地所家屋積金

是ハ現今所有ノ地所家屋ノ元金高ニ至ルヲ度トシ之ヲ積立ツベシ

純益金高百分ノ五 諸役員賞與配當

純益金高百分ノ七十五 總株高ヘ配當

第二十條

若シ格外ノ純益アルカ或ハ格外ノ損失アル等ニテ前條配當ノ割合ヲ非常ニ増減スルヲ要スルキハ株主一同ノ協議ヲ經テ之ヲ決定スヘシ

第二十一條

萬一非常ノ災害等ニテ莫大ノ損失ヲ生シ是レカ爲メ鎖店スルコアルキハ銀行負債及ヒ鎖店ニ付テノ諸雜費等ノ仕拂方ハ第三條ニ準據シテ處分スヘシ

第二十二條

當銀行ノ株式ハ外國人ヲ除クノ外何人ニテモ所有主ノ勝手ニ賣却讓與スルヲ得ヘシ其手續ハ双方連印ノ書面ヲ銀行ヘ差出シ相當ノ檢査ヲ受ケタル上株券ノ裏面ニ頭取支配人ノ記名調印ヲ受クヘシ此手續ヲ經サル間ハ銀行ヨリ割渡スヘキ利益金ハ其株券ノ名前入

ニ渡スヘシ

但右手數料トシテ株券一箇ニ付拾錢ヲ賣渡人ヨリ拂フヘシ

第二十三條

株主ハ當銀行ノ株式ヲ抵當トシテ當銀行ヨリ借入金ヲ爲スヲ得ス

第二十四條

株式券狀ヲ毀損シ汚壞シタル等ノコアラハ其事由ヲ認メテ之カ書換ヲ求ムヘシ又之ヲ燒亡シ紛失シタル等ノコアラハ其實實ヲ詳記シタル書面ヲ作り貳人以上ノ保証人ヲ立テ書換ヲ求ムヘシ

但書換手數料トシテ貳拾錢ヲ拂フベシ

第二十五條

當銀行ノ株主タル者ハ何時ニテモ銀行ニ來リテ勝手ニ諸帳簿ヲ檢閱シ又營業事務ヲ調査シ其所見ヲ陳述スルコト隨意タルヘシ

第二十六條

當銀行ヨリ官府ニ對スル諸願何届書又ハ官私ニ對スル証書約定書等ハ總テ當銀行ノ名号ヲ用ヒ社印ヲ押捺シ又其擔任役員ノ名印ヲ加フヘシ

第二十七條

當銀行ノ諸帳簿及ヒ報告表等ハ豫メ其書式ヲ確定シ一切之ニ準據スヘシ

第二十八條

右ニ締約セル條件實際施行ノ便宜ニ因リ改正増減ヲ要スルキハ株主一同ノ協議ヲ經テ之ヲ改正増減スルコトアルヘシ
右之條々ハ株主一同確守スヘキ証據トシテ各姓名ヲ記シ調印致候也

明治十二年九月十日

株主

丸屋 善八	福澤 諭吉	早矢仕有的	松平 卓丸	近藤 孝行	奥平 昌邁	中村 清行	丸家 善七	杉本 正德	中村 道太	穂積寅九郎	伊藤銓一郎	中井 恒介	木村 勇三
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

小幡篤次郎	關根錄三郎			
安井 清儀	稻垣 眞郎			
朝吹 英二	中尾 寛二			
阿部 泰造	岡本瀧三郎			
笠原 惠	青木 紱			
箕作 秋坪	白石 半助			
山上 重光	芳賀吉之助			
小野 正弘	平尾 東三			
神津 國助	草鹿砥 孫			
赤阪龜次郎	鈴木 驛次			
馬越 恭平	金澤 廉吉			
櫻井恒次郎	伊村 克己			
小川 三三	武田 信時			
城所 武	中村 碌郎			
菊池 清助				
谷 敬三	株主姓名	住 所	所持株數	金 高
永井松右衛門	丸家 善八	神奈川縣下横濱辨天通り二丁目廿八番地	百 株	壹萬圓
田原 嘯	福澤 諭吉	東京芝區三田二丁目二番地	百 株	壹萬圓
近藤 良薰	早矢仕有的	神奈川縣下横濱境町二丁目廿九番地	五拾株	五千圓
德永 周亭	松平卓丸	東京淺草區橋場町八番地	五拾株	五千圓

近藤孝行	同芝區三田四國町十三番地	四拾株	四千圓	馬越恭平	神奈川縣下北臺町七十番地	五株	五百圓
奥平昌邁	同芝區三田四町目廿六番地	參拾七株	參千七百圓	櫻井恒次郎	神奈川縣下橫濱境町	五株	五百圓
中村清行	同神田區山本町廿五番地	參拾五株	參千五百圓	小川三三	東京京橋區本材木町三丁目十三番地	四株	五百圓
丸家善七	東京日本橋區通三町目十四番地	參拾株	參千圓	城所武	東京日本橋區蠟燭町一丁目一番地	四株	四百圓
杉本正德	福島縣下岩代國福島町南裏通り二丁目九番地	參拾株	三千圓	菊池清助	栃木縣下野國宇都町十一番地	四株	四百圓
中村道太	愛知縣下三河國渥美郡豐橋關屋町百〇八番地	貳拾株	貳千圓	谷敬三	東京下谷區仲徒町四丁目十二番地	三株	三百圓
伊藤銓一郎	東京神田區神田猿樂町十一番地	貳拾株	貳千圓	永井松右衛門	愛知縣下尾張國愛知郡牛毛荒井村十七番地	三株	三百圓
中井恒介	同本郷區駒込富士前十八番地	貳拾株	貳千圓	田原曙	愛知縣下尾張國名古屋富澤町二丁目	三株	三百圓
穗積寅九郎	東京日本橋區檜物町十一番地	貳拾株	貳千圓	近藤良薰	神奈川縣下橫濱辨天通り六丁目	二株	二百圓
木村勇三	栃木縣下野國足利郡小俣村	拾株	千六百圓	德永周亭	前同斷	二株	二百圓
小幡篤次郎	東京芝區三田二丁目二番地	拾株	千圓	關根錄三郎	愛知縣下三河國渥美郡豐橋關屋町九十五番地	二株	二百圓
安井清儀	前同斷	拾株	千圓	稻垣眞郎	同縣下三河國碧海郡伏見屋外新田十六番地	二株	二百圓
朝吹英二	前同斷	拾株	千圓	中尾寛二	同縣下三河國寶飯郡北金尾村十一番地	二株	二百圓
阿部泰造	東京飯倉町三丁目十五番地	拾株	千圓	岡本瀧三郎	同縣下三河國碧海郡刈谷	二株	二百圓
笠原惠	同芝區三田三丁目廿九番地	拾株	千圓	青木紱	同縣下尾張國名古屋朝日町	二株	二百圓
箕作秋坪	東京日本橋區蠟燭町三丁目十一番地	六株	六百圓	白石半助	愛知縣下尾張國愛知郡名古屋玉屋町三丁目廿二番地	二株	貳百圓
山上重光	同本所區松井町一丁目廿六番地	五株	五百圓	芳賀吉之助	東京日本橋區橘町二丁目	二株	貳百圓
小野正弘	同神田區神田五軒町十五番地	五株	五百圓	平尾東三	愛知縣下三河國渥美郡豐橋松葉町番外	壹株	百圓
神津國助	信濃國北佐久郡志賀村	五株	五百圓	草鹿砥孫	同縣下三河國寶飯郡一ノ宮村	壹株	百圓
赤阪龜次郎	岩代國菊多郡上遠野村	五株	五百圓	鈴木驛次	同縣下三河國渥美郡豐橋八町	壹株	百圓

金澤廉吉	神奈川縣下横濱辨天通り二丁目廿八番地	壹株	百圓
伊村克己	東京日本橋區通三丁目十四番地	壹株	百圓
武田信時	同下谷區下谷二長町五十二番地	壹株	百圓
中村碌郎	同日本橋區米澤町三丁目七番地	壹株	百圓
人員總計四十八名		株高總數七 百株	金額總計七 萬圓

〔注〕 丸屋（家）銀行規約 半紙判 表紙共十四丁

表紙に「明治十二年十月」「丸屋銀行規約」と二行に記されている。これが丸家銀行の確定規約二十八條及び株主名簿を収めている。

貿易商會設立趣意書

今人口ヲ開ケバ則チ云ク我貿易振ハズ輸出少ナクシテ輸入多シ此出入ノ權衡ヲ得ルニ非サレバ百事望ム可キモノナシトテ國計困難ノ原因ヲ枚舉シテ其罪ヲ輸出入不平均ノ一事ニ歸スルモノ、如シ此事固ヨリ困難ナラザルニ非ス憂フ可ラザルニ非スト雖モ貿易統計ノ表ニ輸入品ノ價額常ニ輸出品ノ價額ニ超過スレバトテ唯コノ統計ヲ一覽シテ利害ヲ斷スルハ未タ眞ノ利害ノ在ル所ニ達セスシテ遽ニ喜憂スル者ト云フ可シ唯統計ノ表ノミヲ見レバ英國ノ輸入八年々歳々輸出ヨリ多クシテ印度地方ノ輸出入ハ之ニ反スレモ此表ニ據テ兩國ノ貧富盛衰ヲトスルニ足ラズ又近クハ我舊幕政府ノ時代ニ内地ノ商人等ガ蝦夷地ニ往來シタルハ即チ該地ノ貿易商賣ニシテ若シモ其時ニ輸出入ノ統計アラバ蝦夷地ノ輸出ハ必ス其輸入ニ超過シタルコナラント雖モ蝦夷ノ人民ハ嘗テ之カ爲ニ殷富ヲ致シタルコナキニ非スヤ然ハ則チ目今我日本國ノ貿易ニ就キ眞ノ利害ハ輸出入不平均ノミノ表面ニ在ラズシテ別ニ深キ原因ノ存スル所アルヤ明ナリ蓋シ余輩ノ所見ニ於テ其原因トスル所ノモノハ我人民ノ占有ス可キ商權ヲ放却シテ之ヲ外人ノ手ニ任シタルノ一點ニ在リト明言セサルヲ得サルナリ

抑モ兩國ノ貿易トハ物ト物ト易ヘ物ト金ト易ルニ過キズ而シテ其コレヲ易ルノ媒介ヲ爲シ中間ノ手數料トシテ利ヲ得ル者コレヲ商人ト云フ故ニ双方ノ貿易者即チ各其本國ニ在ル荷主ヨリ中間ノ商人ニ貿易品ヲ托シテ其手ヲ經テ賣買ヲ爲スニ當リ其商人ナル者ガ甲ノ國ニ屬スレバ乙ノ國ハ物品賣買ノ價ノ外ニ中間ノ手數料ヲ拂ハサルヲ得ズ即チ國益國損ノ在ル所ナリ今我開港場ニ在ル外國人ハ悉皆コノ中間ノ商人ナル者ニシテ年々歲々其所得ノ利ハ我日本國ヲ損シテ外國ヲ益スルモノヨリ外ナラズ貿易ノ權彼レニ在リトハ卽是ナリ

我國人ハ在港ノ外人ニ依頼シテ貿易ノ事ヲ行ヒ既ニ幾分ノ國損ヲ致シ又其物品ノ代價ヲ受授スルニ當テ爲替ノ事ヲモ彼ノ「バンク」ニ任スルガ故ニ輸出入ノ景況ニ從テ爲替ノ相庭ヲ昂低スルモ全ク彼レノ意中ニ存シテ内國ノ商人ハ恰モ其制御ヲ仰キ昂低共ニ常ニ彼レニ便利ニシテ我ニ不便利ナラザルハナシ金權ノ主客、處ヲ異ニスルモノト云フ可シ英國等ニ於テハ古來銀行ノ有力ナル者アルガ故ニ其貿易ニ或ハ輸出入ノ不平均ヲ生シテ自國ノ不利タルントスル景況ヲ見レバ銀行ハ其時機ニ應シテ爲替ノ割合ヲ上下シ以テ其不平均ヲ調理スト云フ國ノ爲ニ金權ノ大切ナル斯ノ如シ然ルニ今我貿易場ニ於テハ此權柄ヲ擧テ之ヲ寄留外人ノ手ニ托ス日本ノ貿易者ハ全ク商權ヲ失フ者ト云フモ可ナリ

又貿易ニ運輸ノ緊要ニシテ其利益モ亦大ナルハ固ヨリ論ヲ俟タズ然ルニ我國產ヲ海外ニ出シ外國ノ物產ヲ我國ニ入ル、ニ其運輸ハ一切外國ノ船舶ニ依頼セサルハナシ試ニ見ヨ横濱神戸等ノ諸港ニテ貿易ノ景況ヲ語ルニ一時ハ入津多クシテ品物潤澤ナリト云ヒ又一時ハ入津少ナクシテ品物缺乏スト云フ其入津ノ船ハ何レノ國旗ヲ齎ヘスモノ歟日章船ノ出入スルガ爲ニ貿易品ノ多寡ニ影響ヲ及ホシタルノ談ハ未タ曾テ聞カザル所ナリ四面海ヲ週ラス此一嶋國ニシテ海上ノ運輸ヲ外國船ニ托スルハ其狀恰モ他人ノ足ヲ借用シテ歩行スル者ニ異ナラズ商權ヲ棄ルノ甚シキモノト云フ可シ

近日ハ我郵便船ノ仕組モ漸ク整頓シ漸ク進歩シテ海外ハ上海ニ通シ又香港ニ達シ其他内國ニ於テ風帆船ノ製造モ漸ク盛ニシテ前途ノ望少ナカラズ國ノタメ殊ニ祝ス可キナレハ願テ數年前ヲ回想スレバ外國ノ船ヲ以テ我貿易品ヲ輸出入スルノミナラズ我人民ハ自國ノ内海ヲ通航スルニモ彼ノ船ニ乘リ自國ノ沿海ニ荷物ヲ運搬スルニモ彼ノ船ヲ雇ヒ恰モ主人ニシテ客ニ致タサレ客ニシテ主人ノ事ヲ行フノ實況ヲ見タルニ非スヤ而シテ其船ニ乘リ其船ヲ雇フテ之ニ拂フ所ノ船賃ハ貿易ノ統計表ニコソ載セザレハ結局我國財ノ自國ヲ去テ外國ニ行キ更ニ歸途ヲ失フモノト云ハザルヲ得ズ我人民ニ歸ス可キ利益ヲ擧テ之ヲ他人ニ捧ケタルモノト云ハザルヲ得ズ貿易ニ航海運輸ノ大切ナルヲ以テ知ル可シ

右ノ事實ヲ以テ考レバ我貿易ノ振ハザルハ獨リ輸出入不平均ノ罪ニ非ス之ヲ振起スルノ法ハ唯我人民ガ自カラ奮テ賣買ノ權ヲ取り、爲替ノ權ヲ取り、航海ノ權ヲ取ルニ在ルノミ此三ノ商權ヲ我レニ歸シテ始メテ我日本モ世界貿易國ノ其一ニ位スルヲ得ヘキナリ坐シテ輸出入ノ不平均ヲ歎息スルヨリモ寧ロ我が欲スル所ニ從テ其不平均ヲ制シ得ルノ勢ニ至ル可キナリ彼ノ英國ノ人民ガ其國輸出ノ不平均ニモ拘ラズヨク貿易ノ盛大ヲ致シテ世界ニ冠タル由縁モ唯コノ三商權ヲ掌握シテ他國人ヲ制御スルヨリ外ナラズ余輩固ヨリ微力ニシテ其所企ノ事ハ則チ難シト雖モ他ノ盛大ヲ見テ徒ニ之ヲ談ムガ如キハ敢テ自カラ屑トスル所ニ非ズ依テ先ツ貿易賣買ノ一事ニ着手セントスルニ當リ幸ニシテ本年橫濱ニ正金銀行ノ設立アリ該行ノ目的モ正シク今日余輩ノ志スル所ニ符合スルモノナレバ相互ニ謀リ相互ニ依頼應援シテ事ヲ爲サバ至難中亦至易ナキニ非サルヲ信シテ爰ニ新ニ貿易商會ヲ設立ス江湖有志ノ士幸ニ此舉ヲ贊ケテ共ニ盡力スルコアラハ獨リ余輩ノ満足ノミナラズ日本貿易ノ利益榮譽ト云フ可キナリ

有限責任貿易商會營業課目

第一條 本社ノ營業ハ諸商人及製造所ノ依頼ニヨリ生糸製茶蠶卵紙蠟產金屬陶漆器其他諸般ノ製作物ニ至ルマテ總テ内國ノ產出ニシテ外人ノ需用ニ應スル物品ヲ直ニ外國ニ輸出シ之ヲ賣捌キ

又諸官省ノ御注文品並ニ諸商人ノ需ニ應シ外國ノ產出ニシテ内國ノ必用ニ供スル物品ハ咸ク其本國ヨリ直ニ輸入シ且輸出入品ノ荷爲替取組等專ラ彼我貿易ノ媒介ヲナシ其便益ヲ謀ルヲ目的トス

第二條 本社名稱ハ有限責任貿易商會ト稱スヘシ

第三條 本社資本金ハ貳拾萬圓ト定メ之ヲ二百株ニ分割シ一株一千圓トス

第四條 本社株主ノ責任ハ有限責任ト定ム故ニ若シ本社ニ於テ非常ノ損害ヲ受クルコアルハ株金及積金ノアル限りハ其負債ヲ辨償スヘシ

第五條 本社ノ本店ハ東京ニ設置シ橫濱及神戸ニ支店ヲ置キ營業ノ景況ニヨリ尙ホ適當ノ地ニ支店或ハ代理店ヲ設クルコアルヘシ

第六條 本社開業ノ始メニ際シ差向キ英佛米支ノ四ヶ所ニ代理店ヲ設クト雖モ往々商況ノ模様ニ從ヒ條約各國ニ支店或ハ出張店ヲ設クヘシ又社員ヲシテ臨時出張セシムルコアルヘシ

第七條 本社營業ノ部門ヲ大別シテ輸出入部及荷爲替部ノ三項トシ又之ヲ區分シテ數課トナス

第八條 輸出入部ヲ區分シテ左ノ數類トス

第一類 生糸、麻、蠶種、織物類

第二類 製茶

第三類 鑛產金屬及諸物產

第四類 諸製作物及雜貨

第五類 海產物

第九條 輸入部ヲ區分シテ左ノ數類トス

第一類 唐糸、毛織及諸種織物類

第二類 諸官省御注文品諸會社諸製造所需用品買入

第三類 書籍藥品雜貨及諸機械

第十條 荷爲替部ヲ區分シテ左ノ二類トス

第一類 外國荷爲替取扱

第二類 內國荷爲替取扱

第十一條 本社ニ於テハ直輸入ノ媒介ヲ以テ本業トナスト雖モ亦諸商人及諸製造所等ノ依頼ニヨリ內國賣買ノ媒介ヲモ取扱フ

ヘシ

第十二條 本社營業ノ進歩ヲ助ケ輸出入ノ蕃殖ヲ促スカ爲メニハ其損益ヲ本社ニ負擔シテ直輸入試ムルコトアルヘシ

但シ之ニ用フル所ノ金額ハ本社資本金額ノ四分一ヲ超ユヘカ

ラス

第十三條 海外諸品物ノ相場ハ各國市場ノ代理店ヨリ每週報告ヲ受取り之ヲ得意先ニ報知スヘシ就中生糸製茶銅鐵地金銀ノ如キ

ハ相場ノ變化毎ニ其市場ヨリ電報到着次第即刻電報ヲ以テ各地方ノ得意ニ報知スヘシ

明治十三年六月

早矢仕有的

朝吹 英二

西脇悌二郎

杉本 正徳

水野 忠精

村松 彦七

山崎千三郎

貿易商會申合規則

第一章立社條裁

第一節 當商會ノ本務ハ通商ノ媒介ヲ爲シ専ラ内外國產直輸入賣買ノ便利ヲ謀ルヲ目的トナス

第二節 當商會諸役員ノ等級及ヒ給料ハ目下、等級表ノ通り定メ置クト雖モ將來營業ノ都合ニ因テ増減スルコトアルベシ

第三節 當商會ヨリ諸方ヘ對スル條約取引其他ノ事務ハ本支店共定規ニ依テ便宜ニ處分ス可シト雖モ其會計上ニ係ルモノハ總テ本店ノ直轄タルヘシ但シ定規内ノ事ト雖モ各支店ニテ取扱ヒタ

ル事柄ハ悉皆本店ヘ報告スベシ

第二章 金銀出納

第一節 當商會本支店トモ金銀出納ニハ其仕拂フベキ又受取ベキ金額ヲ認メタル書類ヘ必ス社長元締役支配人ノ見認印ヲ捺シ之ヲ會計方ヘ附シテ取扱ハシムヘシ金子ノ多少、事ノ緩急ニ拘ハラス見認印ナキ書類ニ對シ決シテ金銀ノ出納ヲ爲スベカラス又此書類ニハ拂濟、受取濟ノ証トシテ會計主任ノ見認印ヲ捺シテ之ヲ仕舞ヒ置クベシ

第二節 當商會金銀出納時間平日ハ午前八時ヨリ午後三時迄土曜日ハ午前八時ヨリ正午十二時迄ニ限レルヲ以テ受取方、納方共此時限中ニ於テ爲スベシ但シ臨時至急ノ分ハ此限りニアラズ

第三節 當商會所有金ノ内當用ノ分ハ第六銀行ヘ預ケ金トナシ商會ヨリ渡ス可キ金圓ハ都テ小切符ヲ授クルニ付受取方ハ此小切符ヲ該銀行ヘ持參シ正金ト引換ユヘシ又當商會ヘ納ムヘキ金圓ハ成ル可ク該銀行ノ受取証トナシテ持參スベシ

但シ銀行ハ金銀ノ檢査嚴重ニシテ殊ニ洋銀ハ些細ノ傷損アルモ受取ラサル定規ニ付各支店ニ於テ他ヨリ受取ル洋銀ハ別シテ精密ニ吟味スベシ

第四節 當商會各支店ヨリ本店ヘ現金拂ヒ込ミノ節ハ其目錄ヘ該店元締役又ハ支配人承認ノ調印ヲナスベシ此調印ナキモノハ決

シテ受渡ス可ラス

第三章 役員規約

凡テ當商會ニ勤務スル者ハ左ノ節目ニ違背ス可ラズ

第一節 當商會ニ勤務スル者ハ社外ノ人ニシテ慥ナル身元引受人華士族平民共相當ノ不動產ヲ所持スル者ヲ立テ章末ニ掲クル所ノ雛形ニ倣ヒ身元引受証ヲ制シ之ヲ元締役ヘ差出スベシ

第二節 社中各員ハ諸規則及ヒ時々告示スル所ノ條令ヲ遵守スヘキハ勿論都テ重役ノ命令ヲ體認シ誠實忠直ニ事務ヲ勉勵スベシ決シテ一巳ノ異見ヲ狹サミ重役ノ差圖ニ乖戾ス可ラス

第三節 前條ノ如シト雖凡テ商會ノ事ニ於テ苟モ意見アル者ハ事ノ細大ヲ論セス重役ノ者ヘ申出務メテ當商會ノ盛大ナランコトヲ要スヘシ然レモ其之ヲ行フト否トハ全ク重役ノ權内ニアルベシ

第四節 社中各員ハ事故アリテ他人ヨリ如何様ノ止ムヲ得カタキ賴談アリモ多少ニ拘ハラス自他ノ爲メ商會ノ金圓ヲ融通ス可ラス

第五節 社中各員ハ各支店并ニ出張先等ニ於テ假令ヒ何程ノ利益アリト見込ムモ決シテ專斷ノ商事ヲナス可ラス必ス之ヲ本店ニ照會シテ其差圖ヲ請クベシ

第六節 社員中若シ賄賂ヲ受ケ商會ノ法則ヲ枉ル等ノ事アルトハ

ハ社長元締役ノ詮議ヲ以テ直ニ退社ヲ命スベシ

第七節 當商會本店、支店、代理店共賭博ハ勿論圍碁象棋其他遊

戯ニ屬スル諸勝負事ニ至ルマテ一切之ヲ禁ス

第八節 社中各員諸規則ニ違背スルカ或ハ職務ヲ怠慢スルハ社

長元締役ノ意見ヲ已以テ退社ヲ命スベシ

第九節 社中各員自己ノ過誤失錯怠慢ノ事ニヨリ社損ヲ釀成シ事

小ニシテ情實憫諒スヘク退社ヲ命セサル者ハ相當ノ償金ヲ徴收

スベシ

第十節 社員中其行狀ヲ猥ニシ他ニ對シ不始末ヲ爲ス者ハ社長元

締役ノ意見ヲ以テ退社ヲ命スベシ

第十一節 社中各員ノ一身一己ニ係ル過失借財ハ固ヨリ當商會ニ

於テ引受ルコナシ

第十二節 社中各員ハ事柄ノ正否ニ拘ハラズ當商會ノ名稱又ハ當

商會ニ於ケル自己ノ役名ヲ以テ自他ノ爲メニ証書ヲ作り又ハ証

書ニ裏書シ及ヒ保証人トナルノコアル可ラス

第十三節 社中各員ハ商會ノ事ニ關シ他ヨリ贈賄スル賄賂ハ勿論

其他賄賂ニ紛ラハシキ物品ハ一切之ヲ受納スベカラス

但シ職務上ニ於テ他ヨリ賞典等贈賄ノ事アラバ直ニ元締役ニ

届ケ其差圖ヲ待ツベシ

第十四節 社中各員ハ互ニ親睦ヲ旨トシ其短闕ハ互ニ之ヲ忠告補

助スベシ若シ意見異ナルコアラハ速ニ之ヲ社長元締役ニ具狀ス

ベシ決シテ私ニ爭論ス可ラス

第十五節 社中各員ハ決シテ商會内ノ機密ヲ他ヘ漏ラス可ラス假

令ヒ機密ニ涉ラサル事ト雖ヒ漫ニ無用ノ他人ヘ語ル可ラス

第十六節 社中各員病氣等ノ引籠及ヒ歸省暇ハ都テ一週日間ヲ限

リトナシ此日數ヲ過クル者ヘハ以後再勤ノ日迄給料ヲ渡スコナ

シ

第十七節 當商會ノ申合規則ハ社長元締役ノ評議ヲ以テ時トシテ

ハ改正増減スルコアルベシ

身元引受證

何府何郡何町何村何番地何寄留

何府何郡何村何番地何寄留

姓名

年齢

右ノ者今般貿易商會ヘ御雇入相成候ニ付同人身元ノ義ハ拙者屹

度引受商會ノ御諸規則ハ不及申諸公布等堅ク爲相守可申萬一不

都合ノ筋出來候節ハ拙者ニ於テ夫々處分致ス可キハ勿論本人若

シ商會ノ金錢物品等ヲ私用シ御損耗ヲ掛ケ候様ノ事アルハ日

數三十日ヲ限リ現品或ハ代金ヲ以テ辨償致シ決シテ御迷惑ニ相

成候様ノ義不仕候身元引受證仍而如件

何府區何町番地住居
縣何郡何村番地寄留

何府士族
縣平民

明治年月日 姓名

貿易商會

御中

但シ右引受證ヲ差出ス節本人ノ寫眞(紙取)一枚ヲ添ユルモノトス

第四章役員給料

第一節 當商會役員ノ給料ハ毎月大ノ月ハ三十日小ノ月ハ二十九

日ニ相渡ス可シ新ニ傭使スル者ヘハ傭狀記載ノ日ヨリ起算シ傭使ヲ罷ムル者ヘハ解傭狀記載ノ日附ニ因リ何レモ一箇月三十日ノ割ヲ以テ出勤ノ日數ニ應シ相渡スモノトス

但シ社則ヲ犯シ入社規則第六節八節十節ヲ以テ退社ヲ命セラレタル者ノ未タ相渡サヘル給料ハ之ヲ支給スルコナシ

第二節 進級退級ヲ命セラレタル者ノ給料ハ何レモ轉役狀ノ日附ニ因リ日割ヲ以テ計算スルモノトス

第三節 社員忌服中出勤スルハ商會ニ於テ差構ヒナシト雖モ父母ノ忌ニ限リ一週日ノ間ハ退引スルモノトス但シ忌服中出勤セサルモノハ都テ一週間ヲ以テ期限トシ之ヲ過クルハ當月ノ給料

ハ日割ヲ以テ給與スヘシ

第四節 社員其親戚ノ病氣或ハ止ヲ得サル事故アリ夫カ爲メ歸省暇ヲ願フ者ハ何レノ地ニ論ナク其勤務ヲ止ムルノ日ヨリ更ニ一週間丈ケノ給料ヲ渡シ以後再勤迄ノ間ハ一切無給タルベシ

第五節 社員ハ如何様ノ事情アルモ商會ヨリ金錢ノ借用ヲ許サズ但シ商會ノ用向ニテ一箇月以上滞在ノ見込アル旅行ニハ時宜ニ因リ前借ヲ許スコアルベシ

第六節 役員ノ月給ハ各店會計方ニテ勘定書ヲ作り元締役ノ捺印ヲ請ケ一纏ニシテ受取ルベシ

第五章積金規則

第一節 積金ハ社員ノ當商會ニ對スル身元保証ノ一部ニ充ツ可キ爲メナルニ付日本人ニシテ商會ノ社員タル者ハ等級ノ高下ニ拘ハラス月給受領ノ都度必ス其一割(即チ十分ノ一)ヲ商會ノ本店ヘ納メ置クベシ

第二節 右ノ積金ヘハ當商會ヨリ一ケ年六朱(即チ百圓ニ付六圓)ノ利子ヲ附シ本人退社ノ節最初ヨリノ元利ヲ合算シテ返附スベシ

第三節 此積金ハ社員身元保証ノ一部ニ充ツルモノニ付入社中ハ如何様ノ都合アリト雖モ決シテ全額ヲ取戻スヲ得ス但シ本人ノ願ニ因リテハ滿三ケ年毎ニ其積置タル金額ノ半數ヲ返ス可シ此

役員等級表

役名	社長	元締	支配人						
月給	七拾圓	五拾圓	四拾圓						
手代等級	一	二	三	四	五	六	七	八	九
月給	九十一圓ヨリ 百四マデ	八十一圓ヨリ 九十圓マデ	七十一圓ヨリ 八十圓マデ	六十一圓ヨリ 七十圓マデ	五十一圓ヨリ 六十圓マデ	四十一圓ヨリ 五十圓マデ	三十一圓ヨリ 四十圓マデ	二十一圓ヨリ 三十圓マデ	十一圓ヨリ 二十圓マデ
旅費 二里	貳拾錢	拾錢	拾錢	拾錢	拾錢	拾錢	拾錢	拾錢	拾錢
滞在日當	壹圓	壹圓	五拾錢	五拾錢	五拾錢	五拾錢	五拾錢	五拾錢	五拾錢
滯在日當	中	中	下	下	下	下	下	下	下
東京 往復 一日	壹圓	五拾錢	壹圓	壹圓	壹圓	壹圓	壹圓	壹圓	壹圓
横濱 往復 一日	貳圓	五拾錢	壹圓	壹圓	壹圓	壹圓	壹圓	壹圓	壹圓

場合ヒニ於テハ三十六ヶ月間ノ元利ヲ通計折半シテ半額ヲ返附
シ殘額ニハ一葉ノ預リ金証書ヲ交附スルニ付在來ノ証書ハ悉皆
取揃ヘ當商會本店ヘ差出スベシ

第四節 前條ノ如シト雖ヒ都テ當商會ノ諸規則ニ違背スル者就中

左ノ禁則ヲ犯スモノアルハハ商會ノ詮議ヲ以テ當人積金ノ全額
或ハ之カ幾分ヲ沒收スルコアルヘシ

第一商會ノ金圓或ハ物品ヲ竊盜スル者或ハ自他ノ爲メ一時之

ヲ融通スル者

第二商會ニ關係アル者ヨリ多少ニ拘ハラス私ニ賄賂贈賂ヲ受

クル者

但シ入社規則第十二節但書社員ノ職務上ニ於テ他ヨリ
賞與等ノ贈賂ヲ受ケ元締役ヘ届ケ出ツル分ハ此限ニア
ラス

第三故意ヲ以テ直接或ハ間接ニ商會ノ損耗ヲ釀成スル者

第四當商會本店ノ許可無クシテ商會ノ名稱或ハ已ノ役名ヲ以

テ自他ノ爲メ金銀貸借ノ証書ヲ造リ或ハ保証人ニ立ツ者

第五商會ノ金圓ヲ以テ專斷ノ商事ヲ爲ス者

第六何事ニ限ラス社員トシテ不體裁ノ事ヲ爲シ商會ノ面目ヲ

汚ス者

第六章 勤惰調査

第一節 當商會ハ毎日曜日、大祭日及ヒ祝日ヲ以テ休暇ト定ムベシ

シサレヒ事務繁劇ノ際ハ定規ノ休日ト雖ヒ休ムヲナシ

第二節 當商會本店支店共毎日午前第八時ヲ以テ出店ノ時刻トナシ午後第四時ヲ以テ退散ノ時刻トナス各員ハ出勤ヲ証スル爲メ出店ノ節先ツ勤惰帳ニ調印スベシ

第三節 退散時刻ニ至リ各員受持ノ日務全ク相濟ムルハ社長元締役ノ退散ヲ待タス一應元締役へ届ケ置キ退出スベシ

第四節 社員病氣或ハ止ヲ得カキ事故アリテ出勤ナリ難キ節ハ必ス元締役へ當日午前八時迄ニ届書ヲ出スベシ爾後一週間ヲ經ルモ出勤ナラザレバ當月ノ給料ハ日割ヲ以テ給與スベシ

第五節 新ニ傭ヒ入レル、者及ヒ進級、退級其他諸向へ出張在勤ヲ命セラル、者ハ都テ本店ヨリ傭狀、轉役狀ヲ受取ルベシ

第六節 社中各員事務ノ大小緩急アリト雖ヒ都テ即時ニ辨スベキハ即時ニ辨シ今日ノ事ハ今日ニ取扱フベシ徒ラニ後刻又ハ翌日ニ附スベカラス

第七節 出勤時間中閑暇アルルハ他人擔當ノ事務ヲ相助クヘシ徒ラニ江湖ノ雜談ヲナシテ傍人ヲ煩ハス可ラス

第八節 各支店役員病氣或ハ事故アリテ歸省或ハ養生等ノ願書ヲ差出スルハ其店元締役又ハ支配人ニ於テ當人ノ容態、事情及ヒ店向事務上、差支ノ有無ヲ詳ラカニ記セル添書ヲ附シ之ヲ本店

へ差送ルベシ

第九節 社員商會用業前中怪我負傷ノヲアリシ者へハ臨時ノ評議ヲ以テ養生料或ハ藥代其他現費ヲ支給スベシ

第七章 當直宿直規則

第一節 當直ハ五等以下手代ノ内一人ニテ之ヲ勤メ休暇日差掛リノ要務ヲ辨スルモノトス

第二節 宿直ハ毎日社員退出ノ後五等以下手代ノ内一人小使二人ニテ之ヲ勤メ翌日社員出頭迄ノ間店向ノ諸取締ヲナシ差掛リノ要務ヲ辨スルモノトス

第三節 新ニ傭使スル者ヲ當直宿直ノ順番ニ組込ムハ見習ヒノ長短ニ拘ハラス凡テ傭狀受領ノ日ヨリ三日後ニ於テスベシ

第四節 當直宿直中電報或ハ急用ノ書翰等到來スルルハ晝夜ニ拘ハラス小使ヲ以テ其宛先へ差送ルヘシ但シ夜十一時ヲ過テ到來セシ分ハ取纏メ置キ翌日拂曉夫々へ差送ルヘシ若シ横文電報ニテ宛先ヲ讀得サルルハ之ヲ元締役迄送り置クベシ

第五節 電報ヲ送達スルルハ電報送達帳へ差出シノ時間ヲ記載シ之ヲ小使へ渡し請取先ニ於テモ又時間ノ記入ヲ乞ハシムベシ

但シ電報等ハ何レモ迅速ヲ要スルモノナレヒ猥ニ小使へ乗車ヲ許ス可ラス尤モ其大至急タルヲ豫知スルカ或ハ止ヲ得サル事故アルルハ之ヲ許スモ妨ケナシトス

第六節 毎日社員退出ノ節ハ銘々火鉢類始末方見届可引取ハ勿論

ナレハ諸員引取濟ノ上ハ宿直ニ於テ必ス各所ヲ巡視シ帳簿書類
整頓ノ有無ヨリ退出後ノ掃除、火鉢、烟草盆類ノ始末方外廻リ
締リ向等行届キタルヤ否ヲ檢査シ盜火難ハ勿論都テ店中不取締
ナキ様嚴密ニ指圖スベシ

第七節 當直宿直共其取扱ヒシ事柄、預カリ置ケル書翰及ヒ物品
ハ當番帳ニ記載シ翌朝元締役ノ檢印ヲ受ケテ之ヲ後番ノ者ヘ引
渡スベシ

第八節 當直宿直共預リ置ク書翰及ヒ物品ヲ授受スルハ必ス目前
ニ並列シ當番帳ニ引合セテ之ヲ爲スヘシ受取人ハ其受領ヲ証ス
ル爲メ之ニ捺印スベシ

第九節 當直宿直共休暇日ハ午前第八時午後第四時限り交代ヲ爲
スベシ

第十節 當直及ヒ宿直中出火アル節ハ其最寄リノ御出入諸官省並
ニ得意先ヘ人足ヲ配送シ萬事手落ちナキ様取計フベシ

第八章 文書規則

第一節 社中諸帳簿及ヒ往復文書等ハ務メテ簡易明瞭ニ書シ人々
讀ミ易キヲ以テ要トスベシ

第二節 諸帳簿其他書類ノ後考ニ供スヘキモノハ必ス丁寧ニ始末
シ紛失ナカラシムベシ

第三節 各支店ヨリ本店ニ申達スル文書ハ都テ其店ノ元締役又ハ
支配人ニテ捺印スベシ

第四節 諸官省ヘ差出ス願伺届ノ類都テ大切ノ文書ヘハ貿易商會
社長元締役ノ姓名ヲ記載スベシ且ツ何レヲ問ハス總テ他向ヘ遣
ハスヘキ要用ノ書類ハ必ス一葉ノ寫シヲ取置クベシ

第九章 支店及ヒ代理店

第一節 當商會ノ支店及ヒ代理店ハ専ラ各地各國ノ得意ト本店ト
ノ中間ヲ取次クモノトス故ニ各支店及ヒ代理店ハ定約其他何事
ニ限ラス定規外ノ分ハ都テ本店ヘ照會シ其指圖ヲ受ケ取扱フベ
シ

第二節 各支店及ヒ代理店ニテ用ユル所ノ印章ハ本店ヨリ渡シ置
クベシ

第三節 内外ヲ問ハス都テ支店及ヒ代理店ノ需要ハ筆紙墨ニ至ル
マテ一切本店ヨリ之ヲ支給スベシ

第四節 各支店及ヒ代理店ヘハ準備金トシテ豫メ若干圓ヲ渡シ置
クベキニ付各支店及ヒ代理店ハ此金額中ヨリ役員ノ給料其他諸
雜費ヲ立替ヘ置キ凡テ一ヶ月間ノ經費始末書ヲ本店ヘ差出シテ
其金額ヲ受取ルベシ

第五節 地方得意ノ依頼ニヨリ支店及ヒ代理店ニ於テ輸出荷物荷
爲換並ニ海外賣捌キ及ヒ輸入品買入レ等ノ條約ヲ結フキ通常條

約ノ分ハ都テ定約書正副三通ヲ制シ一通ハ荷主ニ渡し一通ハ其店ニ留置キ一通ハ條約ノ事柄ヲ詳ラカニ記シタル添書ト共ニ之ヲ本店ヘ差送ル可シ而シテ臨時條約ノ分ハ其緩急ニ從ヒ電信又ハ郵便書狀ニテ本店ヘ照會ノ上其差圖ニ從ヒ之ヲ取扱フベシ

第六節 海外我支店或ハ代理店ノ設ケナキ地方ヘ輸出荷物ノ賣捌キ又ハ輸入品購求ノ依頼アルルハ一切之ヲ本店ヘ申送ルベシ

第七節 凡テ支店及ヒ代理店ニ於テハ如何様ノ場合ニ臨ムモ其獨斷ヲ以テ輸出入ノ物品ニ付損益ヲ負擔シタル條約ヲ取結フヲ得ス

第八節 凡テ支店及ヒ代理店ニテハ經費ニ屬スルモノ、外諸方ヘ對スル諸勘定貸借ハ都テ本店ノ帳簿ヲ經テ其受渡ヲナスベシ

米國滞在費ノ割合

等級	一等	二等	三等	四等	五等	六等
年金	千八百弗	千五百弗	千二百弗	千弗	八百弗	六百弗
支度金	二百五十圓	二百圓	百五十圓	百圓	八十圓	六十圓
旅費	八十弗	六十弗	五十弗	四十弗	四十弗	四十弗

〔注〕 貿易商會設立趣意書 半紙判 表紙共七丁

本書は「有限責任貿易商會規則」の草案の一つ。この設立趣意書の起草者については本文上巻八十四頁参照。尚、本書に副えて

- 「貿易商會申合規則」(半紙判 表紙共十三丁)を併載。
この他に草案として次のものがある。
- (イ)「日本貿易商會創立願書」(藍野紙二枚 毛筆書)
- (ロ)「創立願書」(藍野紙 こんにやく版刷四丁)